

講義科目名称： 基礎看護技術演習Ⅲ

授業コード： 2230100600

英文科目名称： Practice in Nursing Skill Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
◎岡村典子、川島良子、谷内田潤子、山岸美奈子、池田よし江			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 前期</p> <p>【授業時間】 30時間</p> <p>【担当教員】</p> <p>【氏名】</p> <p>◎岡村 典子</p> <p>川島 良子</p> <p>谷内田 潤子</p> <p>山岸 美奈子</p> <p>池田 よし江</p> <p>金井 系未</p> <p>実務経験のある教員が担当します。</p> <p>【研究室】</p> <p>216</p> <p>206</p> <p>共同研究室 1</p> <p>共同研究室 5</p> <p>共同研究室 1</p> <p>共同研究室 5</p> <p>【大学の科目区分】</p> <p>専門科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】</p> <p>看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】</p> <p>○ ◎</p>
------	--

到達目標	看護技術の目的と科学的根拠を理解し、安全・安楽を踏まえた診療に伴う援助技術の知識・技術を習得する。
授業概要	<p>学修する各看護技術の目的と意義、そして実施するための知識・技術を習得する。この科目では、食事・排泄を整える援助、呼吸・循環・体温を整える援助、検査時の援助、与薬時の援助に関する技術について、必要な知識を学ぶとともに演習を通して技術の習得を目指す。さらに、事例に対応した援助を展開することにより、基礎看護技術演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学修を統合する。</p> <p>※A・Bグループに分かれて少人数で演習を行う。詳細のスケジュール（担当教員含む）は後日配布する。</p>
授業計画	<p>1 授業内容</p> <p>授業形態：講義・演習</p> <p>学習課題：無菌操作法</p> <p>学習内容：無菌操作法、滅菌と消毒法</p> <p>備考：</p> <p>2-3 授業内容</p> <p>授業形態：講義・演習</p> <p>学習課題：食事、排泄</p> <p>学習内容：経管栄養法の方法と管理</p> <p>グリセリン浣腸の方法、導尿、留置カテーテルの管理</p> <p>備考：</p> <p>4 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：呼吸・循環・体温を整える基礎知識</p> <p>学習内容：呼吸・循環・体温に関する機能と症状</p> <p>呼吸を楽にするための援助、循環の保持と促進の援助、体温維持の援助</p> <p>備考：</p> <p>5-6 授業内容</p> <p>授業形態：演習</p> <p>学習課題：呼吸・循環・体温を整える看護技術</p> <p>学習内容：酸素吸入（O2ボンベ）、ネブライザー</p> <p>気管内・口腔内吸引法</p> <p>温電法・冷電法</p> <p>備考：</p> <p>7 授業内容</p> <p>授業形態：講義</p> <p>学習課題：検査と看護の基礎知識</p> <p>学習内容：臨床検査の目的、臨床検査の種類</p> <p>検査における看護の役割</p> <p>検査結果を看護に反映</p> <p>備考：</p> <p>8-9 授業内容</p>

	<p>授業形態：演習 学習課題：検査と看護—静脈血採血の技術— 学習内容：注射器・針の取り扱い 採血部位と方法、血液の処理の仕方 医療廃棄物の処理 （注射法については臨床との連携を図りながら学習する） 備考：ゲストスピーカー</p> <p>10 授業内容 授業形態：講義 学習課題：与薬と看護の基礎知識 学習内容：与薬の種類と特徴、薬害、薬品管理、各種与薬法の原則と留意事項 多職種との連携 与薬における看護の役割、与薬時のアセスメント</p> <p>11-13 備考： 授業内容 授業形態：演習 学習課題：与薬と看護—経口与薬、直腸与薬、筋肉内注射— 学習内容：経口与薬法、直腸与薬法 筋肉内注射法 （注射法については臨床との連携を図りながら学習する） 備考：ゲストスピーカー</p> <p>14-15 授業内容 授業形態：演習 学習課題：事例に応じた看護の展開 学習内容：事例に対応した援助について、看護過程の展開を通して考え実施する 備考：</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」の学修を振り返る。 事後学習：診療に伴う技術については、安全に実践できるよう知識・技術を振り返る。その際、教員の指導を積極的に受ける。</p>
評価方法、評価基準	<p>到達目標に対し、下記の3点にて評価する。 1. 期末試験70%：期末試験として、目標達成度を最終的に評価する。 2. 課題20%：課題内容は、学習の進行に応じて講義時に説明する。 3. 学習態度10%：演習、グループワークに主体的・能動的に取り組んでいるかについて評価する。</p>
必携図書	<p>自作テキスト：ファイルにて配布、ハンドアウト資料使用 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。（前年度購入済み教科書）</p>
参考図書・資料等	<p>阿曾洋子他：基礎看護技術，医学書院</p>
受講、課題、資料配布等のルール	<p>・演習は時間の中で順序立てて進めていくため、20分を超える遅刻や途中退出は欠席とみなし、遅刻3回で1時限分の欠席とする。出席日数が規定に満たない学生は試験を受けることはできない。また、服装・髪型・爪などの身だしなみ、言葉遣いといった演習に取り組む姿勢にも留意すること。なお、学習課題の順番は変更する場合がある。 ・看護技術の習得を目指すため、課題へ意欲的に取り組むとともに、時間外の自己学習も必要となる。</p>
教員からのメッセージ	<p>看護援助は、対象の立場を考え、対象に合わせて方法を選択し、実践する力が必要となります。そのためには、看護技術に関する知識の定着とともに反復練習が欠かせません。自習時間を十分に活用した練習を期待しています。</p>
オフィスアワー	